



Phonethica

Project Phonethica Installation “Rondo”

遠藤拓己 + 徳井直生 ENDO Takumi + TOKUI Nao

www.phonethica.net

[作品解説]

ICCの天井から吊された直径5.3mのリング上を周回するSpeaker Unitからは、世界各地から送られてきた音声、サウンドスケープ、インターネットラジオ(リアルタイム)が、それぞれの方位情報を参照しながら再生されています。

インストール中央部に設置されたタッチスクリーンディスプレイには、世界のあらゆる言語の間を飛び越えて音的に近似のコトバ*を探し出すことができるシステム、Phonethica Systemのインターフェイスが表示されています。

Phonethica SystemとSpeaker Unitはワイヤレスシステムによりインタラクティブに連動しています。鑑賞者がインターフェイスに表示されているコトバの1つを選択すると、Speaker Unitはただちにそのコトバが話されている方向へと移動、停止し、そのコトバを発音します。つまり、Speaker Unitの停止した方向の遥か彼方には、実際にそのコトバを話す人々が住んでいるというわけです。

このようにしてPhonethica Systemは、一般に辞書で調べられるような異なる単語同士の意味の一致によるのではなく、偶然に近似の音を持つコトバのつながりによって、無限のイマジネーションを誘発します。

*たとえば、日本語の「鳳仙花(ほうせんか)」という言葉は、チェコ語の「housenka(ホウセンカ=毛虫)」とよく似ています。また、英語で虫を意味する「bug」という言葉は、ロシア語の「Bor(バグ=神)」という言葉とよく似ています。

[Project Phonethica]

文字を持たない民族は現在も存在しますが、話し言葉をもたない民族は未だかつて一度も現れていません。Project Phonethicaは、私たち人類の言語の音声的な特質を媒介に世界の多様性を探り、それをアートの魔力と科学テクノロジーによってダイナミックに散種することで世界の力学を変容しようとするプロジェクトです。

プロジェクトでは現在、デジタルデバイド問題による言語データの偏りを解決するために、Phonethica Systemのウェブへの移行計画「Phonethica Web」が進行しています。Phonethica Webにおいては、インターネットを通じて世界中の人々が言葉を投稿できる仕組み、音声近似値への投票システム、音声認識機能、それぞれの言語の背景情報へのアクセスの仕組みなどが実現されます。同時に、このインストール「Rondo」も会期中数度のバージョンアップが計画されています。2006年末にはPhonethica WebとRondoの有機的なインタラクションが実現する予定となっています。ご期待下さい。

[謝辞]

DAADベルリンアーティストプログラム、
パリ国際大学都市文化局、株式会社 三省堂、
マーティン・リッチズ、河内一泰(河内建築設計事務所)、
松山真也、久世祥三(MATHRAX)、カール・ウィリス、
永野哲久、亀井寛之、深尾紀彦、酒井 聡、木村正博、
宮内義孝、顧彬彬、鈴木聡平、草ヶ谷友則、菱田和宏、
門田訓和、西澤高男、財団法人 国際メディア研究財団

この作品は情報処理推進機構(IPA)2005年度未踏ソフトウェア創造事業(プロジェクトマネージャー:北野宏明)の支援により開発されました。

graphic design: 山辺真幸(Alliance Port / allianceport.jp)